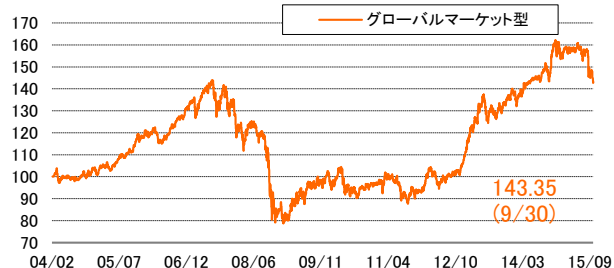


特別勘定クォーターリーレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:アパディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

■ 基準価額の騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年
世界バランス・ファンド	▲4.28%	▲8.12%	▲8.93%	▲3.46%	48.49%

■ 資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株 式	48.42%	50.00%	-1.58%
北米地域	29.73%	30.90%	-1.17%
欧州(除く英国)	8.91%	8.85%	0.06%
英国	2.98%	3.88%	-0.90%
日本	5.15%	4.30%	0.85%
香港・シンガポール	0.44%	0.82%	-0.38%
豪州・ニュージーランド	1.21%	1.25%	-0.04%
債 券	51.08%	50.00%	1.08%
米ドル圏	19.25%	19.04%	0.22%
欧州(除く英国)	17.79%	16.75%	1.04%
英国	3.80%	3.23%	0.57%
日本	10.24%	10.99%	-0.75%
現 預 金	0.50%	0.00%	0.50%
合 計	100.00%	100.00%	0.00%

■ 通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	50.66%	50.12%
ユーロ圏	24.51%	23.63%
イギリスポンド	7.54%	7.11%
豪ドル(含NZD)	1.92%	1.89%
スイス・フラン	1.42%	1.96%
日本円	13.95%	15.29%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称	グローバルマーケット型
主な運用対象の投資信託	世界バランス・ファンド (適格機関投資家専用)
投資信託の運用会社	アパディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
▲4.18%	▲8.06%	▲9.07%	▲4.37%	42.00%	43.35%

特別勘定資産内訳

				構成比(%)
現 預 金	・	そ の 他	投 資 信 託	4.0%
合 計				96.0%
				100.0%

■ 上位10銘柄

株式	国名	業種	投資比率
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	2.18%
CVS HEALTH CORP	アメリカ	生活必需品	2.03%
NOVARTIS AG	スイス	ヘルスケア	2.01%
EOG RESOURCES INC	アメリカ	エネルギー	1.95%
ROCHE HLDG AG	スイス	ヘルスケア	1.91%
ORACLE CORP	アメリカ	情報技術	1.86%
PEPSICO INC	アメリカ	生活必需品	1.58%
HSBC HLDG PLC	イギリス	金融	1.26%
NESTLE SA	スイス	生活必需品	1.25%
PHILIP MORRIS INTL	アメリカ	生活必需品	1.22%
合計			17.25%

債券	クーポン	償還日	投資比率
オーストラリア国債	4.500	2020/04/15	1.77%
アメリカ国債	0.625	2016/11/15	1.42%
スペイン国債	4.800	2024/01/31	1.36%
アメリカ国債	1.250	2020/01/31	1.35%
イタリア国債	0.700	2020/05/01	1.24%
アメリカ国債	3.750	2043/11/15	1.02%
フランス国債	0.000	2020/05/25	0.87%
アメリカ国債	1.000	2019/06/30	0.66%
メキシコ国債	10.000	2024/12/05	0.66%
アメリカ国債	0.375	2025/07/15	0.62%
合計			10.98%

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

■運用コメント

市場概況

・日本株式

(7月) 好調な企業業績を背景に投資家の押し目買い意欲は強く、月末ベースでは5月末をわずかに上回り、およそ18年ぶりの水準となりました。

(8月) 18日から6営業日連続安となるなど月間でも急落、日経平均株価はおよそ半年ぶりに1万8,000円台を割り込む局面もありました。

(9月) 29日には日経平均株価が1万7,000円割れ、東証株価指数(TOPIX)が1,400ポイント割れとなり、いずれも今年1月中旬以来の安値を付けるなど大幅安で月末を迎えました。

・日本債券

(7月) ギリシャ情勢の不透明感や中国株式の急落を受け、利回りが低下基調となりました。

(8月) 4-6月期実質GDP成長率速報値は、個人消費や輸出の減少を受けて前期比▲0.4%に落ち込むなど、利回りが低下しました。

(9月) 米格付け会社のS&Pが月中に日本国債の格付けを1ノッチ引き下げましたが、債券市場はボックス圏での動きとなりました。

・外国株式

(7月) ユーロ圏がギリシャ支援に合意したことで先進国市場は上昇しましたが、中国上海市場の下落を受けてアジアや新興国では下落しました。

(8月) 6月末からの中国上海市場の急落で景気減速懸念が高まり、7月末の反発も弱かったことで8月に入って世界的に先行き懸念が拡大し、大きく下落しました。

(9月) 米国の雇用統計がやや弱く、原油価格も低下したことなどにより世界的に下落しました。

・外国債券

(7月) ドラギECB総裁が量的緩和の完全実施を表明したことで、世界的に利回りが低下して6月の上昇分が解消しました。

(8月) 株式市場の混乱に伴う米国利上げ見通しの減退などから、膠着した動きにとどまりました。

(9月) ユーロ圏でドラギECB総裁が量的金融緩和の拡充を示唆するなど、ユーロ圏を始め欧米で債券利回りは低下しました。

・為替

(7月) イエレンFRB総裁が年内の利上げを改めて示したことで米ドルが買われました。

(8月) 人民元の切り下げや月初の商品価格下落から主に新興国や資源国通貨が売られ、円は対米ドルで一時116円まで急騰して全面高となりました。

(9月) 概ね円高となり、米国の9月利上げ開始が見送られた米ドルも堅調でした。

運用概況

・今四半期(2015年7月~9月)のファンドのパフォーマンスは、基準価額ベースで-8.12%となりました。月別に見ると7月が+0.83%、8月が-4.81%、9月が-4.28%となります。円高に転じたことはマイナスに寄与し、特に株式相場が軟調に推移したため、世界的な利回り低下に伴い債券は好調でしたが、基準価額は大きく下落しました。

・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを下回りました。その主なマイナス要因となった銘柄選択効果は、株式部門では全地域で市場リターンがマイナスの環境においてベンチマークに劣後し、債券部門では金利の低下局面で事業債等への投資がプラスとなりました。資産および地域配分効果において、株式では先進国以上に下落した新興国への配分は大きくマイナス寄与に傾きました。為替は、全般に中立の配分となり、寄与は限定的となりました。

・今四半期の資産配分については、期初から株式のオーバーウェイト、債券のアンダーウェイトを基準とし、期中での変更はありませんでした。株式については、引き続き日本をオーバーウェイトとし、加えて欧州を僅かにオーバーウェイトとする一方、英国や香港・シンガポールをアンダーウェイトとしました。新興国市場にも引き続き投資しています。債券については、現預金相当分も含め日本のアンダーウェイトを継続し、概ね海外では引き続き中立的な配分としました。為替に関しては対ユーロでの米ドル高を見込んだ米ドルのオーバーウェイトを継続しました。

運用方針

・株式市場は中国の景気減速懸念をきっかけに世界同時株安の様相を呈していますが、下落スピードが速く徐々に押し目買いが入ると予想されることや債券相場の上値も重いことから、わずかながら株式のオーバーウェイト、債券のアンダーウェイトを継続する方針です。

・株式については日本のオーバーウェイトを継続し、欧州をわずかにオーバーウェイトとする一方、景気の先行き不透明感から英国や香港・シンガポールをアンダーウェイトとする方針です。

・債券については、現預金相当分も含め日本のアンダーウェイトを継続し、英国をオーバーウェイト、米ドル圏をアンダーウェイトとする方針です。

・為替に関しては、対ユーロでのドル高を見込んだ米ドルのオーバーウェイトを継続する方針で、日本円以外の他通貨についてはわずかにアンダーウェイトとする予定です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して(年率 0.75% +運用実績に応じた費用 ^(※))/365日を毎日控除します。 ※運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、実績が 年率1.5%を超過した場合のみ、超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.7344%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ(TS型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TS型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TS型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「スイス年金」は現在販売しておりません。

[募集代理店]

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

(平日 9:00~21:00 土日祝 9:00~17:00 年末・年始を除く)

ホームページ / <http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>